

2026 年 8 月 3 日 (月) 未来デザインアカデミーの初めの一步となる「プレイベント」が始まりました。メインイベントの二日目に備え、デザインアカデミーを主催する未来構想ラボ設立の主旨説明、プロジェクトデザイン、企画書とプレゼンテーション、そして課題として選択した「えきしろ空間」について理解を深めました。

二日目は講演とグループワークによるデザインプロセスの体験です。冒頭「積み木自己紹介」を通じて中学生、高校生、大学生、大学院生の参加者の名前と好きなコトやモノを知り、雰囲気が一気に打ち解けます。



最初の講演はホテルニューステーション代表取締役 小林篤史様による「松本のまちづくり 人づくり」です。ホテルニューステーションは「地域に根ざしたローカルホテル」をスローガンに経営されています。小林様がまちづくりに関わるようになった原点はこどもの頃にあるそうです。新村からまちに出てお父様と歩くエンギザ (映画館) までの道のりがワクワクドキドキして楽しかったとのこと。この高揚感を今の中心市街地に取り戻すのが活動の動機付けになっています。中心市街地再設計検討会議のメンバーとして中心市街地の通過空間を減らし長時間滞在できるよう「市民が主役のまちづくり」を推進しています。



次の講演は松本市議会議員でオリンピック 中山英子様による「まちの記憶を未来へ 地域の文化とまちづくり」です。中山様は飯田町と呼ばれる信毎メディアガーデン (旧七福ボウリング) 東側、まさに中心市街地のど真ん中で生まれ育ちました。スケルトン競技の日本代表選手として世界を転戦した時は、子ども時代体験したお祭りや、松本の景色などが、アイデンティティーとなり、支えになりました。歴史を経て本物となり、子どものうちに本物を体感する環境が大切とのこと。そのために地域の祭りなど伝統文化の継承が大切で、現在、市の事業を活用し、「松本城下町舞台市民プロジェクト」に取り組んでいます。今の自分は過去があるからこそ、「あなたも物語の続きにいる」というメッセージが印象的でした。



講演者への質疑応答を経て、ゲスト参加くださった宮城県議会議員 外崎浩子様から「外から見た松本の魅力」をお話いただきました。外崎様は未来構想ラボ代表理事と 60 年来のおつきあいで未来デザインアカデミーキックオフのために仙台市から駆けつけてくださいました。地方都市を際立たせるかは共通した課題である中、小林様や中山様の「地元愛あふれる活動」に感激したとのこと。主役は市民ですが観光客に自分達のまちが選ばれることにも価値があり、松本市の工芸の五月は外崎様の大好きなイベントだそうです。今日の帰り道、いつもの道のりでお店や店主さんに興味をもって新しい発見をして帰ってくださいというアドバイスを頂戴しました。



講師のみなさんも参加したグループワークショップの後、四つのグループの発表です。

トップバッターはチーム「PIK (Public 井戸端 会議)」です。タウンスニーカーより小型のコミュニティバスの運行、昔あった屋外での映画鑑賞会の復活、保育スペースと育児相談など活性化のアイデアを提案しました。



二番目はチーム「It's KA」です。偶然にも全員の名前が「か」で終わります。松本市内にたくさんある井戸（例えば鯛萬の井戸）に湧き水で水遊びができる場所と休憩所を作る、学校行事を花時計公園でおこなう、レストランや商店とコラボしたスタンプラリーが提案されました。

三番目はチーム「ももせりおな」です。全員の名前を取り込んだニックネームです。「運動ができる」を中心に検討しました。松本市の暑さ寒さを考慮し開催の季節を決めること、運動後の汗を銭湯で流せるように協業することなど検討しました。



最後は「チーム宮下」です。必要な人に必要な情報が届くよう広報のやり方を工夫する、自転車で中心市街地に出かける市民 (特に子育て中のお母さんやこども) が使い易い駐輪場を整備する、自宅の前にベンチを置いて憩いの場とするような住民が面白がって楽しめる活動を広げるなど具体的な提案がありました。



最後に松本市副市長 伊佐治裕子様からの総評です。各チームの発表に丁寧にコメントをいただきました。湧き水(井戸)での水遊びや、花時計公園を利用して生徒の企画に市が協力する形での探究的な学び、市街地に運動スペースを設置することや映画鑑賞会を開く案などは実現できそうのご感想でした。市でもえきしろ空間に関するプロジェクトを進めており、将来的には大名町にオープンカフェができたり、お城の周囲にランニングコースができたりする期待が持てる情報もありました。また、駐輪場の整備は市としても最重点で取り組んでいる課題とのこと。個人的なお考えとして、松本の渋滞が激しいのは城下町の古い街並みを保存している証拠でもあり、小型バスなどの公共交通網を整備して中心市街の車を減らし、歴史的な街並みは守りたいという、松本愛あふれるお話もお聞きしました。



今回のイベントの運営面では、日程の設定と参加者の募集が大きな課題でした。途中での予定変更もあり、当初は設定していた参加費は無料としました。参加者の年齢層や人数が最後まで流動的で、ターゲットを絞り切れず内容の精選が甘かったことが一番の反省として残りました。他にも多くの反省点がありますが、今回の貴重な経験を今後の企画や講座運営に生かしていきたいと思っています。年齢や立場が異なる人たちが自由に意見交換できる機会は、これからも大切にしていきたいと思います。参加していただいた皆様には心よりお礼を申し上げます。

